

平成22年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ホッケ

学名 *Pleurogrammus azonus*

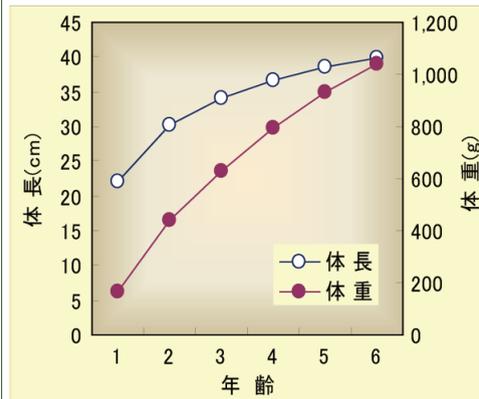
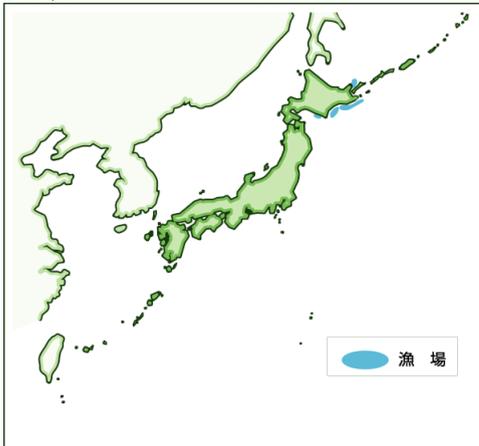
系群名 根室海峡・道東・日高・胆振

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 10歳以上
 成熟開始年齢: 1歳の終わり(一部)、2歳の終わり(大部分)
 産卵期・産卵場: 日高沖や根室海峡に形成、知床半島先端水域における産卵期は10月中旬～11月中旬
 索餌期・索餌場: 正確な索餌場は不明、漁場域は、襟裳以西、道東、根室海峡、北方四島周辺水域の水深200m以浅に形成
 食性: 仔魚期には主にカイアシ類、未成魚期にはココエビ類を多く捕食、岩礁周辺で定着生活に移行後は様々な種類の動物を捕食
 捕食者: 不明

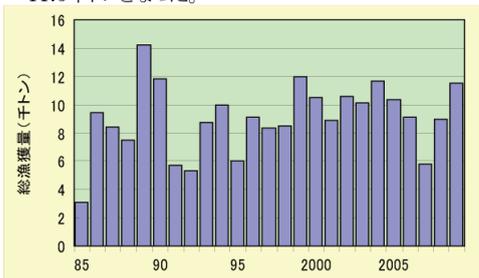


漁業の特徴

北海道根室海峡・道東・日高・胆振海域におけるホッケの漁獲は、刺し網、定置網などの沿岸漁業および沖合底びき網(沖底)によって行われ、総漁獲量の7～9割は沿岸漁業による。海域によって漁業種類は異なり、襟裳以西および道東海域では沖底および刺し網類、根室海峡海域では刺し網および定置網による漁獲が主となっている。海域別漁獲量は、根室海峡海域で最も多く、根室海峡の沿岸漁獲量が海域全体の漁獲量の5～8割を占める。

漁獲の動向

1989年に14千トンに達した後減少し、1990年代は5千～9千トンで推移した。1999年に11千トンを超えた後、近年は10千トン程度で推移していた。2007年の漁獲量は6千トンまで減少したが、2008年には9千トンと回復し、2009年は11.5千トンとなった。



資源評価法

本海域におけるホッケの漁獲物は、ほとんどが1歳と2歳であるため、コホート解析による資源量推定には適していないと考えられる。また、漁獲物の大半は沿岸漁業によるものであり、漁法も多岐に渡るため、海域全体の資源量指標(CPUEなど)を得る事は困難である。さらに、本漁場はロシア水域と接しているが、ロシア側の分布情報などが入手できないため、正確な資源評価は難しいと考えられる。これらのことを踏まえて、当該海域の漁獲量から資源の水準と動向を判断した。

資源状態

本海域における過去25年間(1985～2009年)の漁獲量の平均値を50とし、35未満を低位、35以上65未満を中位、65以上を高位と設定した。2009年の漁獲量は11,507トンで水準値は64となったため、資源水準は中位と判断した。また、過去5年間(2005～2009年)の漁獲量は、2007年まで減少傾向が見られたが、2008年以降は増加し、5年間で一定の変動方向は示していないため、動向は横ばいと判断した。



管理方策

漁獲量の変動が資源動向を反映すると仮定した場合、1996年以降の資源豊度は安定した水準で推移しているものと判断されたが、2004年から2007年にかけて減少した。2008年以降は再び漁獲量が増加したが、今後も資源に対して急激な影響を与えることを防ぐため、現行の漁獲努力量を上回らないように調整することが重要である。直近の漁獲状況が良いことから現状の漁獲を継続することとし、ABClimitは、過去5年間の平均漁獲量(Cave5-yr)に1.0を乗じた漁獲量とした。ABClimitは、ABClimitに不確実性を考慮した安全率である0.8を乗じた漁獲量とした。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	9,200トン	1.0Cave5-yr	—	—
ABClimit	7,300トン	0.8・1.0Cave5-yr	—	—

- 算定されたABCには、「安全操業」による漁獲を含まない

資源評価のまとめ

- 漁獲物の年齢幅がせまく、コホート解析が困難
- 海域全体のCPUEを得ることが困難であるため、漁獲量の変化から資源評価を実施
- 過去25年間の漁獲量の推移から資源水準を、また過去5年間の漁獲量の変化から資源動向を判断

管理方策のまとめ

- 1996年以降、資源豊度は安定していると考えられるが、2004年から2007年まで漁獲量が減少し、その後増加した
- 広域にわたり分布・回遊する種であることから、来遊状況によって漁獲量の変動すると考えられる
- 現在の資源水準を維持するため、漁獲量を近年の水準に保つ

執筆者: 森田晶子

資源評価は毎年更新されます。